

演劇

枇杷の家

作 緑川有

演出 瀬戸山美咲



2020年3月7日(土)・8日(日)

両日とも14:00開演(13:30開場)

東松山市民文化センターホール

〒355-0024 東松山市六軒町5-2

チケット発売

メンバーズ先行発売 2019年12月12日(木)~

一般発売 2019年12月20日(金)~

チケット料金 全席指定・税込

一般 2,500円
(※メンバーズ料金2,000円)

高校生以下 1,500円
(※未就学児は入場不可)

チケット取扱い 東松山市民文化センター ☎0493-24-2011

WEBで購入 <http://theater.pac.or.jp/>
(ホームページ内チケット予約ボタンよりお進みください)

※発売初日のみ 窓口・WEB10:00~ / ☎13:00~
※メンバーズ価格でのご提供はおひとり様2枚まで

出演 = 大林弘子 (椿風子 役)

小川知 (柳原薫 役)

菜月ひとみ (牧野月子 役)

比島順 (徳永銀次郎 役)

主催 公益財団法人東松山文化まちづくり公社

共催 東松山市教育委員会

後援 埼玉県 埼玉県教育委員会 東松山市

公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団

朝日新聞さいたま総局 FMNACK5

共同通信社さいたま支局 埼玉新聞社

産経新聞さいたま総局

時事通信社さいたま支局 テレ玉

東京新聞さいたま支局

日本経済新聞社さいたま支局

毎日新聞さいたま支局

読売新聞さいたま支局

協力 彩の国さいたま芸術劇場

助成 一般財団法人地域創造

昭和、平成、そして令和へ…。東松山から「新しい家族の物語」を。

東松山市は、自然豊かな里山があり、それでいて東京へ一時間ほどで行ける、いわば都心のベッドタウンである。

戦後の東京集中に伴う宅地開発が進み、昭和から平成にかけて人口が増加し、現代もそれは続いている。平成31年4月30日をもって、平成という一時代の幕が下りた。平成家族物語という企画は、この時代を生きてきた私たちが感じたこと、家族の姿を、東松山市をはじめとする大都市周辺の街が舞台となる作品を選び、またそれを上演することにより、来るべき新たな時代を考えていこうとするものである。

第2弾演劇「枇杷の家」…

平成から令和へと変わった今年度、本プロジェクトは2年目を迎えました。平成30年度は、3か年事業の1年目、第1弾『東松山戯曲賞』の創設、その優秀作品「枇杷の家」(作・緑川有)の朗読劇公演を開催。市・県内外からの出演、観客と、多くの皆様にご参加いただき、本事業に對しまして高い評価を得ることができました。2年目となる令和元年度、作品は、第2弾 演劇「枇杷の家」へと進化します。演出は、昨年第26回読売演劇大賞優秀演出家賞受賞の瀬戸山美咲さん、キャストには、49名の応募者から選ばれた個性豊かな4名の俳優たち、そして、現在演劇界で活躍中のスタッフ陣と市民ボランティアスタッフが一丸となり、新たな時代の家族像を模索した「くっちゃべり芝居」に挑みます。

Profile



演出 **瀬戸山 美咲**(せとやま みさき)

劇作家・演出家・ミナモト主宰。2016年、「彼らの敵」で第23回読売演劇大賞優秀作品賞受賞。最近の作品に『THE NETHER』(上演台本・演出)、オフィスコトネ「埒もなく汚れなく」(作・演出)、さいたまネクストシアター「ジハード-Djihad-」、新国立劇場「あの出来事」(ともに演出)などがある。オフィスコトネ「夜、ナク、鳥」(演出)、流山児★事務所「わたしと戦争」(作・演出)で第26回読売演劇大賞優秀演出家賞受賞。「アズミ・ハルコは行方不明」、「リバーズ・エッジ」など映画脚本も手がける。2016年、FMシアター「あいちゃんは幻」で第42回放送文化基金賞脚本賞受賞。世田谷パブリックシアターのワークショップ、多摩ニュータウン×演劇プロジェクト、ロンドンパブリシアター「ヒロシマの孫たち」などコミュニティの人々との創作にも携わる。



作 **緑川 有**(みどりかわ ゆう)

グラフィックデザイナー。愛媛県出身。成安女子短期大学意匠科卒業後、広告代理店、デザイン事務所等の勤務を経てフリーランサーに。その後上京し、青山にてデザイン事務所設立。企業PR誌や社史、学校案内等のデザインに携わる。現在、戯曲執筆に取り組みとともに、井岡道子の筆名で小説を執筆。「父のグッド・バイ」で第15回(2007年)やまなし文学賞受賞。「次ぎの人」で第1回(2014年)林芙美子文学賞受賞。



大林 弘子(樺 風子 役)

MONAジャズダンススタジオ主宰。(元)日本ジャズダンス芸術協会オーナー会員。生徒育成とダンサーとして数々の舞台で活躍。2007年に引退し役者の世界に挑戦する。文学座シニア俳優養成プラチナクラスを卒業する。プラチナネクストに所属し活躍。「太夫さん」「かもめ」「石棺」「十二夜」「楽屋」「鯨が私の手に乗れ」(2020年4月に台湾演劇祭に招聘される)他にも数々の作品に出演する。



小川 知(柳原 薫 役)

舞台芸術学院、青俳、クラブマールイを経て、現在フリーで活動中。年間平均で、2～3本の作品に出演している。日本新劇俳優協会会員。主な出演作品として、陽だまりの樹(銀座セゾン劇場)、二宮金次郎(東京芸術劇場)、夕鶴・トロイアの女(彩の国さいたま芸術劇場)、イエスタディ(俳協ホール)。映像作品では、映画「中学教師」(松竹)「新・おしゃなな喜し」(東京都消費者センター制作)、教育用ビデオライブラリシリーズ(東京都制作)その他、様々な作品に出演。



菜月 ひとみ(牧野 月子 役)

13歳より芸能活動を始める。TV、CM他、商業演劇、ユニット芝居に出演。最近では五木ひろし・市川由紀乃公演「雨あがる」(御園座)松平健・中村美津子公演「暴れん坊将軍」(御園座)他に出演。また、TVクイズ脳パルSHOW(BSフジ)に出演。特技の日舞でフロリダダンスニールワールド日本代表に選ばれた経験もある。



比島 順(徳永 銀次郎 役)

福井県生まれ。東松山市在住。1982年から埼玉県公立中学校国語科教員として勤める。1985年から3年間バンコク日本人学校に勤務。比企郡児童生徒詩文集編集長、埼玉県国際理解教育研究会副会長を歴任。2019年東松山市内中学校長を定年退職。同年、朗読劇「枇杷の家」出演。高坂駅前彫刻群の作者高田博厚の顕彰に携わる。

ネットで簡単!チケット購入
<http://theater.pac.or.jp/>
 ホームページ内チケット予約ボタンよりお進みください
 お電話でも予約できます ▶ ☎0493-24-2011



Story

風子(六十五歳・未亡人)は、異常にポジティブである。そのうえ、妄想癖までありそうだ。薫(六十五歳・独身。会社員だったが今は無職)は、やや斜にかまえた毒舌家。月子(五十八歳・独身。フリーランスライター)は、恋に無縁だと悩みつつ常に冷静なタイプである。そんな三人が、庭に大きな枇杷の木がある一軒家を借り、シェアハウスとして暮らし始めて3年目を迎えている。リビングでは、何かと理由をつけて宴会が始まる。酔いがまわると、三人のディープな本音が怒涛のごとく飛び交い絡み合う。アラ還の大人の女だからといって、古くからの友人だからといって、優しいわけでも、思いやり豊かなわけでもない。言いたい放題、むしろ、わがままである。言葉のバトルとささやかな癒しが交差する三人の日常である。そんな中、薫はどうやらお付き合いを始めた男性がいるようだ。と、同時に風子にもそんな男性の存在が明らかになる。風子と薫がそれぞれ月子に語った「すらりと姿の良い素敵なおじさま」は、ビジュアルだけではなく、天才的な褒め言葉までそっくりだ。月子だけが知ってしまった危険な関係は、ある日、枇杷の家でドラマチックな結末に向かう。

Staff

- 美術 原田 愛
- 照明 岩品 武顕
- 音響 金子 伸也
- 衣裳 小林 巨和
- 演出助手 朝倉 エリ
- 舞台監督 大畑 豪次郎
- 制作助手 中谷 梢
- 制作 岩崎 達也
中山 智恵
鈴木 和幸
菊地 俊孝
- コーディネーター 渡辺 弘
- プロデューサー 石田 義明



東松山市民文化センター ホール

〒355-0024 埼玉県東松山市六軒町5-2 ☎0493-24-2011

電車ご利用の場合: 東武東上線、東松山駅東口下車徒歩約20分。
 バスのご利用は東松山駅東口バス乗り場から
 「パークタウン 五領行き」に乗り、「東松山市民文化センター前」下車。

クラウドファンディングサービス「READYFOR」にて、舞台製作にかかる大道具及び広報物製作のための資金175万円を目標に12月6日(金)よりプロジェクトを開始致します。

クラウドファンディングプロジェクト概要

プロジェクトタイトル	「〜平成家族物語〜舞台芸術によるまちづくりプロジェクト第二弾」 (https://readyfor.jp/projects/hfs)		
目標金額	175万円	※目標金額に達しない場合、全額支援者へ返金されます。	
募集期間	2019年12月6日(金)~1月31日(金)	56日間	
リターン例(一部)	●公演チケット	●上演台本	●配布パンフレットへのご芳名掲載
		●バックステージツアー	等